

口は健康のもと Vol.138

歯の磨耗

乳歯から永久歯への交替は6歳頃に始まり、第二大臼歯まで揃うのが20歳頃とされています。平均寿命が男女ともに80歳を超えると、歯の機能期間は60年以上になります。歯にはスポーツや事故などの外力、食物による温度変化や噛み合わせることによる物理的なゆがみが作用しています。歯質は経年的に硬くもろくなり、摩耗によりエナメル質はすり減り、疲労してヒビが生じます。歯の損耗の程度は硬いものを好む食習慣や、歯ぎしり、歯を食いしばるような職業環境などにも関係しています。エナメル質がなくなると露出した柔らかい象牙質が摩耗し、周囲に残ったエナメル質がさらに欠けて損耗が進行します。このような歯の損耗が高度にみられる状態を破折歯症候群といいます。

このような状況の歯に対する治療は進歩し、軽度の損耗は硬質プラスチックで修復ができます。外力から歯の保護にはボクシングでおなじみのマウスピースで対応します。一方、歯ぎしりは生理的な現象なので止めることは困難ですが、ナイトガード(就寝時に歯に装着するプラスチック製のマウスピース)が使用されます。

以上の治療は比較的簡単にできるので、歯のすり減りが気になる方は歯科医院を受診してください。



奥羽大学歯学部附属病院

総合歯科 准教授 菊井 徹哉

